

入善町 議会だより

6月定例議会

№ 31号

発行所 入善町議会

編集 入善町議会だより編集委員会

富山県下新川郡入善町入善3,255

☎ 0765 (72) 1100



暑中御見舞い
申し上げます

ページ案内

6月定例会で決定したこと	2ページ
討 論	3ページ
一般質問	4～9ページ
行政視察記	9～11ページ
寄附受入れ	12ページ

国保税条例 入善漁港海岸保全 施設工事を可決

第28回 6月定例会議会は22日から29日まで
8日間の会期で開かれた



入善漁港

こんなことが決まりました

主な案件

昭和56年度一般会計補正予算をはじめ、工事請負契約、議決案、条例議案、議員提出議案、同意案等を可決、請願・陳情の採択が主な内容である。

▽工事請負契約について
入善漁港海岸保全施設整備工事 第8工区
契約金額 5千500万円
契約相手方 広川建設工業KK
▽昭和56年度入善町一般会計補正予算(2号)
補正額 2千80万2千円
予算総額 55億3千20万2千円
▽入善町税条例の一部改正について
町民税・法人税割の税率を100分の14.5から100分の14.7に改正し、56年8月1日以降終了する事業年度分から施行する。

▽低開墾地域工業開発促進法施行に伴う固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正について
改正点は課税免除の対象となる資産の取得価格の合計額800万円を1千200万円に引き上げ、昭和56年4月1日以降の取得に係る固定資産税について適用する。

▽入善町国民健康保険条例の一部改正について
医療費及び高額療養費等の増高に伴い、税率を改正するものである。

所得割額	100分の6を100分の8.1
資産別額	100分の34を100分の42
被保険者均等割額	1万200円を1万4千300円
世帯別平等割額	1万5千円を2万円

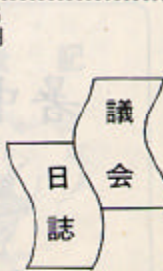
▽入善町災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸付金の貸付けに関する条例の一部改正について
法律、政令の一部改正に伴い、弔慰金の支給及び援護資金の貸付けに関する額を引き上げられたので、町条例を一部改正するものである。

▽字の区域の廃止について
土地改良ほ場整備事業に伴う字の区域の廃止(谷江工区、谷江尻)

議員提出議案
◆入善町農業委員会委員推薦について
古原 信行(藤原)
板川 久松(上野)
長田 知久(東風)
金山 梨(舟見)
金森 清作(中沢)

◆入善町選挙ポスター掲示場の設置に関する条例の一部改正について
◆ソ連地区抑留者に対する補償実現に関する意見書
◆食糧、農業、米穀政策の確立ならびに昭和56年度産米、麦の政府買入れ価格等に関する意見書

▽助役の選任について
6月24日、助役の辞任に伴いその後任として、屋本健一氏(道古)を選任することに同意した。



日	内容
5月14日	文教厚生委員協議会
21日	新潟県南蒲原郡栄村議会視察来庁
25日	東部議会議長会総会
26日	下新川郡三町議会議長会臨時総会(朝日町)
27日	産業建設委員会町内行政視察
30日	広城圏関係議会議長会(朝日町)
6月1日	第27回臨時議会
3日	東部議会議長会行政視察(金沢市)
4日	富山県町村議会議長会臨時総会(富山市)
5日	産業建設委員会町有林視察
8日	総務委員会行政視察(糸魚川市ほか)
9日	全国町村議会議長研修会(東京都)
10日	議会運営委員会
11日	議員全員協議会
22日	第28回定例議会(1日目) 議会運営委員会
24日	第28回定例議会(2日目)
25日	第28回定例議会(3日目) 文教厚生委員会
26日	総務委員会
29日	産業建設委員会
29日	第28回定例議会(4日目)

討論

討論

討論

反

国民健康保険税の引き上げなどに反対

九里 郁子議員 (共産)

入善町の全世帯の40パーセントをこえる世帯は、人口の30パーセントの被保険者がかかえる国民健康保険ですが、保険税は5年前に2倍にも引き上げられている。

国保財政悪化は高令者層、低所得者層が多くさらに政府の対策として老人医療費の無料化や、高額療養費支給制度の実施などによって療養給付費が急激に増えたにもかかわらず、それに対する国庫補助の不払いや、財政調整交付金がすえおかれていくことが主な要因であると思う。

55年度事務費と高額療養費だけで国の不払い額は3千万円にもなる。被保険者一人当たり約3千円にも相当する金額である。そこで当面の措置として国の負担率を守らせ、町の超過負担をなくすべく国に強く要求することが必要である。

また一般会計からの繰り入れを増額し、低所得者、高令者の負担を軽くし、現在の治療中心の医療制度を改革するため、予防、公衆衛生を強化、健康管理、治療、リハビリと一貫した地域医療体制をつくらなければならぬ。すなわち病気の予防に取り組めば、住民が健康になり医療費も減る。

このように医療制度の抜本的改正と、町民の健康管理の徹底、一般会計からの繰り入れの増額等により保険税の軽減が求められている今日、大巾な負担増を町民に課す国民健康保険税条例の一部改正については反対である。

選挙は政策や人物を町民に広く知ってもらい、そして投票するのが基本である。地方自治体は町民が公正に選挙権を保障すること、また新しく立候補する権利は誰にでもあり、町民に広く知らせるべく手段を確保すべきである。

町の美観をそこねるといふ理由については本質的に良識に待つべきで、広く選挙民に知らせることがより重要である。

公職選挙法の改悪及びボクスター揭示の制限は主権者である町民が政策と人物に投票することにワクをはめることになり、入善町選挙ボクスター揭示場の設置に関する条例の一部改正について反対する。

入善町一般会計補正予算の歳入歳出については何れも町発展のための妥当な追加予算である。健全財政を前提に予算の執行にあたって欲しい。

賛

一般会計補正予算は妥当な追加予算である

大林 政雄議員 (自民)

入善町一般会計補正予算の歳入歳出については何れも町発展のための妥当な追加予算である。健全財政を前提に予算の執行にあたって欲しい。

国会においても国保改正について種々の論議がかわされているが、当町においても国民健康保険条例の一部改正については慎重に対処していく必要がある。所得割25パーセントアップ、その他のアップで一応健全に運営されると出ているが、本員の試算によれば病床増の波及分推計、病床稼働率の31パーセントは過少見積りであり、稼

選挙は政策や人物を町民に広く知ってもらい、そして投票するのが基本である。地方自治体は町民が公正に選挙権を保障すること、また新しく立候補する権利は誰にでもあり、町民に広く知らせるべく手段を確保すべきである。

町の美観をそこねるといふ理由については本質的に良識に待つべきで、広く選挙民に知らせることがより重要である。

公職選挙法の改悪及びボクスター揭示の制限は主権者である町民が政策と人物に投票することにワクをはめることになり、入善町選挙ボクスター揭示場の設置に関する条例の一部改正について反対する。

賛

国民健康保険税の引き上げはやむを得ない

上島 藤吉議員 (自民)

入善町国民健康保険税条例の一部改正について、私も国民健康保険審議委員の一人である。九里議員から反対の意見が出たが、審議委員の中でも負担が大きいという意見も出て、いろいろ審議したのである。最終的に一市町村ではどうにもならない問題であり、やむを得ないという結論が出たのである。

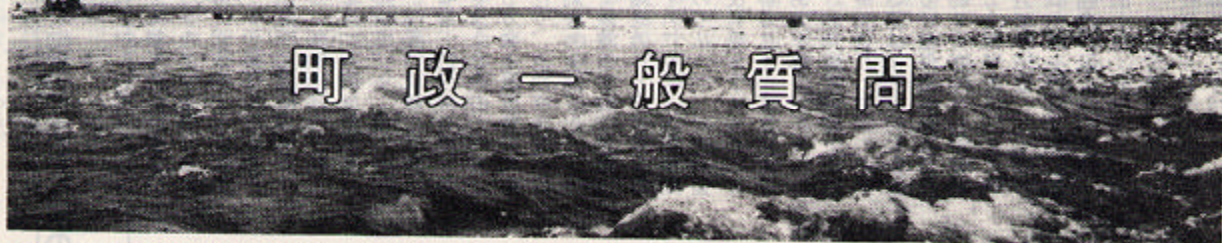
討論においていつも九里議員と相反することを申すが、すべてが国営で私有財産を認めないという制度の中でおきるものと、自ら限界があると思う。国に対し抜本的な改正が必要であることは認めるが、田から行くも、畦から行くも一緒であるという結論が審議会で出され、また常任委員長の審査報告も可決となっており、本員も賛成である。



29日	総務委員協議会
7月	
1日	黒部川水利調査特別委員会
2日	新潟県南蒲原郡中の島村議会視察来庁
3日	下新川郡三町議会議員協議会総会
9日	議員研修視察(神戸市)
10日	上・中・下新川郡議会議長会総会 (朝日町)
14日	広城圏議会 (魚津市)
22日	沖繩県宮古郡城辺町議会視察来庁
23日	宮城県中田町議会視察来庁
25日	京都府田辺町議会視察来庁
27日	広城圏関係議会議員研修会
30日	議会だより編集委員会
31日	

発電所建設計画に集中

町政一般質問



行政の取り組み 姿勢について

上島藤吉議員（自民）

自民クラブ 同志会代表質問

発電所建設計画に伴う諸問題で尋ねる。

発電所建設計画が農協総代会において問題となり、黒部川水利対策農民大会となり、実行委員会が生まれたと聞いていますが、一部の農民の皆様に間違っていると判断がなされているとあって町長名の文書が各家庭へ郵送された。

内容は農民大会実行委員会と一緒に問題に取り組みと書いてある。実行委員会の署名運動が起こると今度は土地改良区特別委員名の文書が配布され、それには署名をんかしないで下さいと書いてある。この事に最も詳しい土地改良区連合理事長であり、地方行政の長として答弁を求めらる。

町長名を持って郵送された文書は町長名を使うべき性質のものであったかどうか。土地改良区の職員が作成したものだとの噂もあるが、町の公文書として見れば土地改良区の職員の介在がおかしい。また、土地改良区連合会の文書とすれば町長名を使うことがおかしいと思う。町当局は毎月広報を出しているのに郵送の文書は不自然である。町長は農業をしていない

のに理事長の資格があることに町民が疑問を持っている。つまり員外役員を規約で定めてあると私は解している。この機会に明確にしたい。

更に発電の補償問題は土地改良区連合会と農民大会実行委員会が共に当るものと解するが、現在対立している様に映るこの問題の要は、実際に被害を受ける農民に問題を伝えずしてトップ交渉が行われ、補償額まで決められたところにあるのではないか。今も土地改良区役員の中に、理事長が農民の代表で権限を持っている様に誤解している人があつたらしい。いやしくも主権在民の法治国でいままら民法第百十条等と法を持ち出すまでもなく、農民個々の権利問題であり、それを何等合意の手続きも取らずに理事長にその権限が移る道理が無い。

土地改良区連合会の理事長である町長はこの件についてどの様な見解を持っているのか。また今後どの様な形で発電と交渉されるのか。町長はこのほか漁民や一般住民の事も考慮に入れなければならない筈である。

関連質問 福沢万次議員（社会）

町長の農家へ出された文書は入善町長榎木栄吉となっている。これは公文書か私文書なのか、また経費は町か、土地改良区なのか。次に黒部川土地連理事の資格であるが、町長は入善土地改良区から議員として出られるが、土地改良法第3条第何項の組合員であるか。

発電と15億円で調印されたと聞くが、何月何日何処で、相手側は誰で、当事者は誰と誰で、立合人は誰でどのような内容によってされたか、住民が納得出来る様、公表されたか。

黒部川水利対策実行委員会と黒部川土地改良区連合の関係は平行線状態であり、その為農民は誤解と戸惑いを感じている。これを今後どの様に解決するのか。

農民対立の原因はどこにあるのか。また町長名で出した文書の前にも議会にこの問題についての説明する考えはなかつたか。

発電問題に関し昨今種々の文書が出まわっている。読めば読む程奇怪至極である。土地改良区と農協の組合員は別なのか。町長は水利対策農民実行委員会を任意団体として認められ、それらの方々と同じテーブルについて考えはないのか。

発電所建設計画については総論で賛成するものであるが、その後における冷水について問題がある

と考えるので、町長は土地改良区理事長としてではなく、町長が一貫した交渉に当たられたい。

町長

町長という境界での答と、土地改良連合の理事長という立場での話しと重なったり離れたりするとはある。交渉は一市三町七千300ヘクタールをもって組織する土地改良連合の右岸、左岸の代表である榎木栄吉、荻野幸作、正副理事長に一任すること進められている。

新愛本発電所の課題は水温低下であり、2カ年に渡って調査をした。一つは原耕地に依頼、一つは連合自体の専門委員会が当り、今一つは発電において国立三重大学農学博士松下先生に依頼、それぞれ調査した結果、三者が一致した数字は5、6、7、8月、日平均0.8℃の水温が低下する。

土地改良法の第2条第2項に農業用排水路建設、災害復旧、農業水利に関する権利、水の使用に関する権利がうたわれている。

したがって土地改良区は法の定めるところによって、水の権利行使については明らかである。勿論、黒部川水利対策実行委員会は農民の代表であると認識している。土地改良区特別委員名の文書は私には一切関知することではなく、町長名で農民の皆様に出した文書は、不安を無くする為にお知らせしたものであるが、費用は個人で出した。重要なことは、地域住民の同意がなければ着工

させない、着工を留保する」と言う内容を知らず知らずのうちに黒部市その他2町で何も言っていないのに、土地改良連合の理事長の名前を使うことのできないことを理解してほしい。問題は農協の総代会は2月、土地改良の総代会は3月であり、1ヵ月早く農協の総代会が開かれた時の話である。

法的根拠に立った土地改良連合とよく連絡されて話し合いがされればよかつたと思う。いずれにしても農協の水利用委員会と土地改良の皆さんは選出母体が一つであり、当然これは一本化すべきである。

農業をされない一般住民の水利用環境に影響ないようこれ等を加え三者一体となつて事に当るべきである。また農業をしていない一般住民の水利用に対する補償などは当然入善町が当るべきである。

町政である以上は私の責めはまぬがれない。その責めを善置に受け、至らざるは詫び、理解していただきけるものは理解していただき、誠意をもって事にあたつて行きたい。また関電が昨年8月12日、水温低下0.8℃程度は補作に被害はないと思ふが協力費、解決金として8億円提供すると申し入れて来た。土地改良連合では認識を欠くものと一蹴した。そこで交渉は断絶している。

しかしクリーンエネルギーとしての水力発電の魅力は国家的使命である。その意味で住民の同意がなければ着工させないと言うこと

を前提に置きながら、関電の計画説明を聞くことにした。黒部、入善、朝日、宇奈月と各地で数回の説明会が開かれた。当町では54年8月20日、同じく55年6月13日に議員全員協議会において同じく55年8月19日に各界、各種団体長の説明聴取があつた。55年12月15日住民の同意がなかつたならば工事にはさせないと言ふことを付け加えて電調審にかけることに同意を与えた。他の市町も同様同意を与えている。

55年12月6日魚津農地林務事務所での土地改良連合の臨時総会において
1、用水量は絶対に確保する。
2、テレメーター等の監視施設を入善町に置く
3、ピーク発電をつとめてフラットにする
4、冷水に対する相当額の補償をさせる
5、各自自治体の合意がなければ着工させない

と言ふことを条件に、ここで改めて理事長榎木栄吉、副理事長荻野幸作に交渉を一任すると言ふことを満場一致で決議した。これ等の経過を十分に理解して欲しい。理事長の資格であるが、私は土地改良区の賦課金を納めており、農協へ米も出荷しているが、入善主導型とする為に私が選ばれたと思ふ。

行政の取り組み姿勢について疑問の点を尋ねる。

町長と助役は琴瑟相和して町政に取り組み、町民の公僕として奉仕の精神を堅持し、その任務遂行に全智全能を傾けて努力すべきものである。

ところが3月議会において町長の暴力行為が問題となり、その時助役がこれを否定しなかつた事から町長と助役の間に深い溝が出来現在行政の姿勢は決して正常なものと言ひ難い。

町長は課長会議の席上や文教厚生委員会後席上で激しく助役を批判し、地方自治法第104条を持ち出して、助役をやめさせるのに議会の同意が要ないとか、知事と相談したらどうだったとか聞き及んで今日まで放置していることは理解に苦しむ。何故に毅然とした態度で助役に望む事が出来得ないのか。

もし議会がやかましくなつたのと議事を小柄にとるならば姑息な手段と申し上げたい。町長は今後の行政運営をどう進めて行くかまた支障が生じているなどと言われる不評をどう解消されるのか。助役に尋ねる。企画財政課長時代より榎木町長のふところ刀とまで言われ、助役に就任され僅か一年有余で、町長の口から助役の任務を遂行してない等との言葉が出るのは、誠に不可解な事であり理解に苦しむ。

しかし町長の口から出た発言であり、議員としてこれを聞き捨て不問に出来ない。いずれに非が有るは是があるか助役としての言い分

も聞きたい。

助役は町長を助ける役だから助けないものは助役ではない。助役は町長の信頼が身分保障である。今まで私はいろいろと言われてきたが我慢してきた。3月以來話したこともなく、私の部屋へ来たこともない。3月定例会が常識的に一つの機会であつたと思つてい

る。3月議会の時に議長、副議長のご意見を聞き、助役と話し合う機会を持つて出来なかつた。したがつて今後助役がどの様な態度を取ろうとも本人の良識にまかせせるものである。要は3万町民の皆様の大膽な批判によつて物事が判断される。

助役 一昨年9月議会において議員の皆様のご同意を得て助役に選任していただき、ご指導、ご協力賜つたことを厚く感謝する。ご指摘の通り色々の面で町長との間で面白くないことがあることは事実である。私は榎木町長の昨年11月の職員慰安会における暴力行為は、地方自治の長として民主主義の基本を大きく曲げているものと思つて

いる。また昨年3月議会における飲酒による開会の遅延は、議員を軽視し議事を冒瀆するものと思ふ。また公の最高責任者である町長が自ら公私の区別と、経費の節減に努めることが大切であるにもか

かわらず、多くの不適正な支出と公金の無駄使い等は理解に苦しむ処である。

私は助役任期中、飯野の墓地公園、浦山新の精薄施設、高速道路、日本電気の困難な用地交渉を町長に代つて職員と共にやつてきた。しかし今日の事態になつたことは私の進言や意見がうとんぜられ町長の権力的な感覚が改まらなかつたので、この際助役を辞任し、町民の皆様にも真実の行政内容を報告し、町の発展につとめたい。只今辞表を提出し、次期町長選に出馬することを表明する。

町長 お聞きの通りであるが、私は助役が自ら退任することを待つていた。企画財政課長を助役に抜擢し、半数以上の人がだめだと言ふのをどうぞお願いしなすと言ふことで助役になつて、わずか3ヵ月半年で町長選の準備をしていた。これは私の不徳の致すところである。人間は恩を受ければ恩で返すのが人の道である。それが民主主義と言ふものである。私は25年間県会議員であり、県議会の議長もやつてきた。一地方の職員しかやつていない人とは違ふのである。今入善町はすばらしい発展を

とげている。この発展をまだまだ伸ばして行かなければならない。したがつて明日の大林議員の質問通告にあつた答弁として、ここに次期町長選に四選出場することを表明する。

大型店進出に対する

町長の所信を問う

岩場 俊議員 (民社)

問

大型店進出への対応について過去何回か論議された問題である。最近大型店業界の動きは非常に活発であり、隣接の黒部市に黒部ショッピングセンターとジャスコショッピングセンターの進出が具体化されている。

隣町である入善町に波及は避けられないことであり、対応も極めて難しいと思う。そこで町長の言われるボランタリチェーン方式を更に発展させ、大型店進出に対抗出来る商店街づくりが可能かどうか。また地元商店街と共存出来る大型店の誘致が可能か。先日全員協でも大型店による土地取得の調印を未然にふせがれたということであるが、うわさではまだその調印がきているということも聞き、あわせて町長の所信を伺いたい。

町長

黒部市にジャスコの進出が具体化し、入善町として商圏形式のあり方、消費者対応に注目を要するところである。

黒部市は入善町のように再開発もなく、商店街に活気がない。従って他の市町へ流出した買物が45

億6千万と推定され、流出率は23パーセントと見ている。

約1年前前に、中町内の一部に大型店舗との話が進み、土地の売却、調印がなされようとしたことを聞き、直ちに思いとどまっていた。私有財産だから町とし

ては介入出来ないこともかもしれないが、入善町全体としては大変なことであるから、困られる方もおられるのではないかとどまっていた。一抹の不安はまだあるが、ひとまず了解をいただいたものと思っ

隣市の大型店に対応するため、都市計画の一部変更し、商店街環境整備と東町国道線を結ぶ道路で、東からの導入をはかり西へ出るのを押えたい。このように入善町商店街を保つて行くよう考えている。

公有財産の管理について

九里 郁子議員 (共産)

問

今年には国際障害者年であり、完全参加と平等を目指し、障害者福祉対策を充実し実りあるものにして

5月30日共産党入善町委員会は住民から寄せられた要望、ろうあ者から独自で陳情された要望などの申し入れを行った。その結果近くにいる健聴者に緊急を知らせる為の緊急カードの支給や、福祉会館玄関のスロープ化など早速実現され喜ばれている。

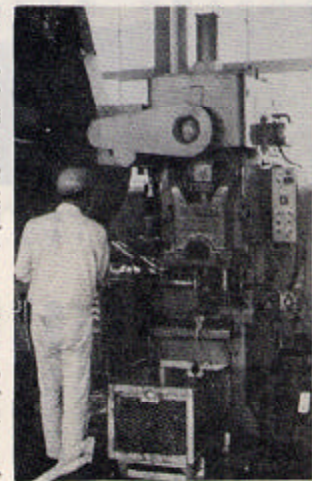
今年には国際障害者年であり、完全参加と平等を目指し、障害者福祉対策を充実し実りあるものにして来るよう配慮される考えはないか。

町長

障害者年に当り、5月30日九里郁子議員と若島啓次氏から6月議会における補正予算の申し入れがあった。党派を超え、小さい事柄でも身につまされる思いであり住民の力強い要望として受け止めている。

要望の中から改善出来るものより逐次指示をしている。困るのは

庁舎玄関ドアで、難しいが実現に向けて努力していく。



入善精密鍛造KK

問

憲法に男女平等がうたわれて35年を経過しており、政策決定部門への婦人の参加問題は、1975年の国際婦人年世界会議で採択され、審議会等へ婦人を積極的に登用するよう言っているが、我町の各種審議会や協議会に参加させることについてとその現況はどうか。また婦人の能力、特性に対する先人親や固定的な男女の役割分担に関する意識が根強く残っている入善町職員においても、女性の役員は

所長代理の保母を含めて20名しかない。

もつと婦人と関係深い保健指導や福祉の方に係長として登用する考えはないか。女性ならではの細やかさ、女性同志の気安さが、町政が身近になり、住民サービスと女性地位の向上につながるのではないか。

町長

外国ではイギリスのサッチャー婦人など数多くの首相などがおられる。婦人の地位向上はあたら

れるものではなく、自ら獲得するものと考え。

地方公務員法第13条で規定し、勤務条件、任用、服務、分限及び懲戒、不服申し立て等平等取扱の原則が適用される。これは単に肉体的条件が異なるとか、肉体的条件以外は同じであるとか、平等に取扱うことは抽象的に考えてもむづかしい問題である。

職員について、新規採用者の任用及び給料表の格付けは、平等取扱の原則は守られており、その原則は主任、係長、課長と昇任にもなつて変わっていくと思う。

管理職の場合は能力実証主義に則り、諸般の事情を考慮して、ある職に誰を昇任させて任命するかは任命権者の裁量による。女子職員を管理職に登用するには有能な職員が出来れば昇任して行く。

問

昨年の12月議会において、入善機械工業センター協同組合より返された土地を、入善工機KKに無償譲渡する議決がなされた。町長の説明では自動車部品を作る会社で、20名の地元中高年令者を雇

用し、操業は今年の6月とのことであった。

法人はその設立の日より2、3週間以内に登記しなければならぬのに、入善工機KKはつい4日

前の6月20日設立登記をした。これでは架空のものに財産を無償譲渡したことになる。しかもこの土地は他に欲しい人があったという

ことと、今年の4月この土地を希望者に斡旋したいと不二越協力工場中儀一郎会長名で、県下の会に出されている。これはいったいどういふことか。

関連質問 竹内 社本議員(無) 機械工業センターの入善精密

鍛造KKであるが、当初従業員30名、第2期30名、第3期30名計90名と、無償譲渡の時説明されたが、現在何名で運用されているのか。入善工機KKであるが6月操業といっているのに、現在空地となっており、他社の機材置場になつて

町発注工事について

福沢 万次議員 (社会)

景気の落ち込み、公共事業の抑制等で各業者は軒並み不況を訴えている。その為町が発注する数少ない建設工事入札に際しても業者間の軋轢があり、勤労者福祉センターや上青小学校建設にあつて既に落札予定業者の名前を聞く。町

町長

入善機械工業センターは39年に誘致した。その頃は全て無償とした。その後センター従業員の高生施設や組合事務所の設置ヶ所は放置されたままになっており、雑草の生い茂るまま病害虫の巣となり付近住民より苦情が相次いだ。町へ返還すると言つてきたのでそれより工場を建ててくれるよう町で申し入れをした。入善工機については、他に拡張を希望する隣接の企業があつたが、工場誘致の原則と、地元民の雇用、発展可能性とを判断し、田中精密グループに決めた。

操業は6月であつたが、9月に変更された。入善精密鍛造及び田中精密は中小企業の域を越えており、同社は他に用地を持つており、そこで工場建設する予定のものを入善に持つてきてもらった。操業は4ヶ月程ずれているが、当初計画どおり行つて言つてはいる。

には指名委員会があり、各業者に公平に機会を与えていることと思

うが、今後共充分留意されたい。また学校のように大型工事の場合、大手と地元業者による共同企業体を組ませ、中小企業の育成と技術のレベルアップを図るべきでないか。

町長

町発注工事の指名競争入札には当然公平にしている。景気浮揚策として予算の42パーセント22億円を投資事業として、上半期の発注に努力している。

共同企業体では責任の所在がいまいであり、大手であれば面子にかけても最後まで責任を取る。しかし今この大手とは言つていないし、私の関知しないことであり、勝手に、無責任な恨根のないデマである。

共同企業体については今後前向きに考えて行く。

去る3月議会で私は豪雪の教訓を生かして無雪害街づくりを積極的に取り組めと要望した。町長も県の無雪害街づくり6ヶ所のなかに入善が入つており、順次消雪事業に取り組んでいくとの答弁があ

中央公民館建設等における財源の見通しは

池原金与志議員 (自民)

老人福祉センターおよび中央公民館建設について、老人憩の家、中央公民館は生涯教育、住民コミニティで大きな役割を果たしている。両施設はともに木造で老朽化

つた。しかし今年にはロータリー除雪車と流雪溝(メートル)が国庫補助対象になったことは評価するが補助だけを頼りにした他力本願的な計画だけでは足りない。

去る6月27日から28日、産業建設委員会が新潟県十日町市を視察したが、今冬の豪雪でも交通に支障はなく、消流雪の完備に目を見張るものがあった。より一層の整備をお願いする。

町長 入善町の克雪対策は決して他町に遅れは取つていない。

地区に入つてはいるが、県の計画したものはすべて受け入れていくつもりである。ただ大型店舗が進出するという時代、一挙に商店街を整備するということが緊急であり舟見地区を含めて町全体を都市化するという特別の処置を例外としてやつてくれる方法はないか腐心してはいる。

町民の特質は勤労意欲旺盛で勤勉である。町に誘致された企業は順調に伸びており、これからも公害のない付加価値の高い企業の誘致をはかつて農工一体の町として位置づけたい。

就労人口も第1次産業から第2次、第3次産業へ移るものと考え

してあり改革が急がれるが、事業費は膨大であり、学校建設とあわせて財源の見通し、敷地の選択、周辺環境、施設の規模、改築後の構想について尋ねる。

老人憩の家は亡き木本幸与作氏の寄附をもとに建設したものであるが横の助産施設が老朽化したため建て直したい。

国の補助対象施設は5千23万円、国と県が3分の1づつである。これでは少ないので多少財源に無理があるが、倍位にしたいと思つている。

中央公民館は利用率が高いので56年度調査、57年度基本計画、58年度建設と、図書館をあわせて敷地3千平方メートル、事業費5億4千万円と建設調査委員会を發足し実現に取り組んでいる。

町内企業が充実しつつあり将来に向かつての産業構造と方向付けと、山地、広い平野、海岸線と産業生産物との連携ある観光開発の構想についてどのように考えているか。

町長 町民の特質は勤労意欲旺盛で勤勉である。町に誘致された企業は順調に伸びており、これからも公害のない付加価値の高い企業の誘致をはかつて農工一体の町として位置づけたい。

就労人口も第1次産業から第2次、第3次産業へ移るものと考え

町の観光資源はローカル的に高いものがあるが全体的に劣るので前途洋々たる産業にあわせて、広域観光に入善の自然をとけ込ませたい。

北陸新幹線の建設見通しは

上田 義信 議員 (自民同)

問 北陸新幹線の建設見通しについて、第2次臨時行政調査会の答申は凍結に定まったようであるが、建設に向けて地元負担に関係する新幹線鉄道整備法の改正が国会で可決されたと聞く。運輸省、大蔵省、自治省ではどのように展開されているのか。建設に向けての町長の見通しを問う。

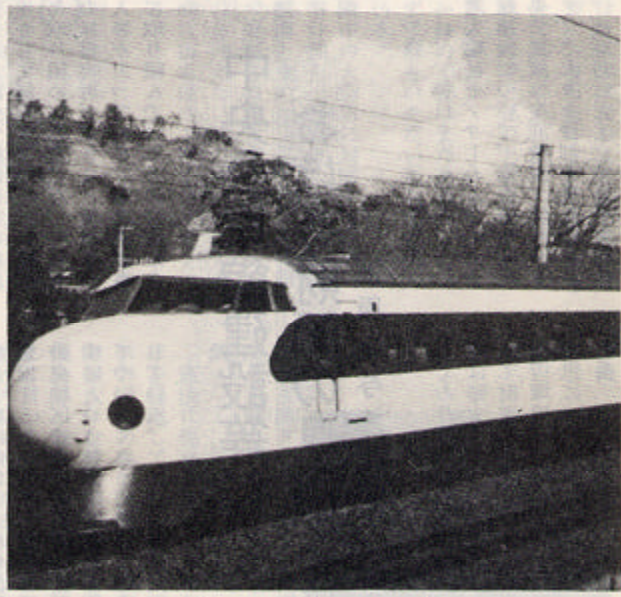
町長 北陸に光をと言う知事の強い悲願の通り、私も建設を強く望んでいる。中沖知事は出来ないことを承知で地元負担に応ずると言うことで、新幹線整備5線のうち、北陸が最優先として箇所づけされ作戦である。しかし本来地方自治体がそのような負担は出来るものではない。また第2臨調では事実上棚上げとなる可能性が大であり渡辺蔵相も新幹線はやらないと言っている。また着工しても完成まで10年もかかると思われる。したがって今の時点での論議は適当でない。

それよりも上越新幹線の営業が明年より開始される。それによって北陸線の上りと下りが逆になる。この時がチャンスであり、入善駅

に持急を停車させることがより現実的であり、町民の皆様と力を合わせて実現に向けて努力して行きたい。

問 住居表示について、入善町の市街地は急激な発展をとげ、番地の広さが一定でない。多数の住宅が同じ番地になっていたり、番地の並び境界がはっきりしなかったり不便を感じている。そこで番地表示をやめて、街区方式など整理される考えはないか。

町長 住居表示は法律によって定められているものである。最近の町の発展は著しく市街地が急激に広まっている。しかし住宅が多く増える場所、或いはそうでない場所等これを一律に平均20戸づつに切ることは現実問題として不可能である。例えば道路一本で通学区が変わる場所も出てくることもある。したがってこの問題については各種団体、学識経験者等の意見をよく聞き、積極的に取り組んでいきたい。



新 幹 線

国の行政改革と財政再建について

屋木 忠義 議員 (自民)

問 56年度は財政再建元年予算とも言われ、増税なき財政再建をキャッチフレーズに行財政改革を強調し鈴木首相は行革に政治生命をかけると言ひ、地方自治体に協力を要請している。

中味は支出削減、高額医療費自己負担限度額の引き上げ、地方自治体による独自の老人医療の無料

化軽減の廃止、国保の地方一部負担など地方財政に過大な要求をしている。大企業関係の補助金には手をつけず、農林水産業では米価や農畜産物等の農業予算の切り捨てを考えている。

中沖知事の談話にもあるように地域特例の補助率引き下げは、地域条件格差の是正と国土の均衡ある発展を図るもので、国の財政再建

のための切り下げには反対し、強く国に要請すると発表されている。特に学校給食牛乳も一部削減され、57年度には全廃と聞いている。農民への協力をお願いし町長の見解を問う。

町長 国の行政改革に伴う地方財政の逼迫は今極めて難しい局面に立たされている。

行革で審議されている中味の一部に自治体の肩代りというものが表面に出ている。

補助金についても目的を達した社会的、経済的に実情に合わないもの、補助金の効果が乏しいものなど、あるいは受益者の補助と特別に負担になっているものを融資という形に変えて行く処置が出来ないか。また緊急性に乏しいものは一時停止する。あるいは補助率を引き下げる。零細な補助金はその価値からしても整理を進める。この様なことなどがその中にもなっている主なものと思う。

例えば農村という実情を知らないでかけ離れた所で議論をしている臨調や行革について、しばらく成り行きを見守る必要があるが、自民党、各省庁は大きく反発している。

農業についてまだ決め手が出ていないが、ご指摘の酪農や畜産について町は出来る限りの力を注ぎ、運用の面でも大企業やあるいは学校など給食実施時には使用してもらおうということで、協力をおしませたい。

60才定年制 導入について

竹内壯太議員 (無)

問

第94回通常国会において、公務員二法案のうち国家公務員の定年制導入法案が可決された。

基本的には問題があると思うが是非は別として決定された60才定年制に対して町長の所見を伺いたい。

町長

定年制の延長について配慮しなければならぬのは、職員の新陳代謝が停滞することや、一挙に上げれば極端な年齢の断層が出来ることなどである。

国会で定年制法案が可決され、

地方公務員法一部改正案は継続審議となり、国に準じて各自治体が定年を定めるに当たり経過措置が必要である。

現在下新川3町のうち男子は3町とも55才、女子は入善、宇奈月が50才で朝日が53才、単純労働職男子については宇奈月、朝日が60才、入善が58才、女子については宇奈月、朝日が55才、入善が51才である。

終局的には近隣市町村との均衡を保ちながら、男女とも60才とするが現時点では段階的に前向きで考えて行く。

中央通り線の建設に伴う 路上電柱の地下埋設について

大林政雄議員 (自民)

問

災害発生時における対応策は万全を期し、中央通り線の新設立案計画に着眼された事は高く評価する。

交通弱者、身障者の通行増に伴い路上電柱等が通行を妨害し道路

の有効幅員を減少させている。また災害発生時における機動力を低下させ、街路の美観を損っている。建設省も取り組む方針であり、本路線新設に際して地下埋設方式にしてはどうか。

町長

入善町は無火災35日を折願達成し、60日に迫ろうとしている。全国でも例のない事である。今後も十分な注意を心がけたい。

中央通り線は大型店舗の進出に対応するためしばらく延期し、入善町の商店街の構造改善、肉付けなどをして力を付けまして大型店進出に備えなければならぬ。

しかし路上電柱の埋設については賛成であり、中央通り線については県営事業なので、県に強く要請していく。

今でははしご車も通れるように電話線、電線の整理も大体終わっているが完全とは言いきれず、地下埋設が理想と思っている。

町長

町長の四選出場の決意について。私はどの町にも負けないように私自身の30数年間の体験を生かして多くの方々とお付き合いを願い、力をお借りし、初心忘れず精力的に仕事をしたい所存である。従って町民の皆様様の厳重な批判を受けながらこれからも町政を担当させていきたい。

第27回臨時議会

工事請負

契約を決定

◆第27回臨時議会は6月1日開催され、入善漁港東防波堤災害復旧工事の工事請負契約を可決した。

契約金額 3千900万円
契約者 ㈱ 飯作組

県外先進地視察記

文教厚生施設を

視察して

文教厚生委員

九里 郁子

入善町にある小学校の内、50年度に統合新築された黒東小学校を除く全ての校舎は老朽化し、学校建設は今後の大きな課題のひとつである。

また、中央公民館の改築や、老人福祉センターの建設も町民の強い希望であると同時に町も積極的に取り組まねばならない問題でもある。

文教厚生委員会は4月30日、5月1日の両日にわたり、大山町、石川県松任市と山中町の小学校3校、社会教育文化会館、老人福祉センター等を視察した。

まず、今年度から3ヵ年計画で建設される統合上青小学校を念頭に置いて、今年4月完成(体育館は工事中)したばかりの大山町立上滝小学校を視察した。

校舎は、廊下に沿っていくつも教室が並び、窓は南側、廊下は北



側に一直線、といったこれまでの学校建築の常識を破っている。

様式についての評価は別として計画の段階から使用する立場の先生が主体となって進められてきたことは大いに学ぶべきであろう。

「校長の考える学校を建てるから」との教育委員会からの話を受けて、先生方が3ヵ月かけた調査や視察のまとめをもとに、設計も5社の参加によるコンクールで選んでいる。しかも、公平を期するためにと、審査は福井工大の教授陣に依頼している。

教室の黒板や電灯、壁やカーベ

ットの色、長靴がラクに入る二段式の下足入れなど先生方の細かい配慮が生かされている。

松任市は年間2千人の人口増、小学校児童も年間5百人も増える人口急増市である。

49年度までに小学校13校を5校に統合したが、50年度から児童数増加により分離の方向で進め、現在9校全部鉄筋コンクリート化されている。

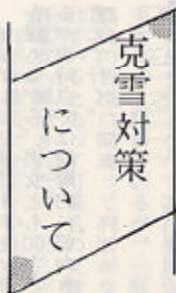
旭丘小学校は児童数30名で今年4月に開校した分離による新設校である。南側に面した教室は明るく、2階から4階まではバルコニーがある。

山中町立菅谷小学校は山手にある18名の小規模校で、54年度に鉄筋化され、体育館の夜間解放など地元住民の文化の中心になっている。

松任市の千代野会館は、石川県が県政百周年記念事業の一つとして造成している千代野ニュータウンの中にある。県内で最も規模の大きい老人福祉センターと、宿泊施設(定員82名)並びに地区公民館の複合施設である。鉄筋コンクリート造3階建、収容定員20人、工費3億5千3万円、55年5月オープンした。看護婦1名が常駐し、週2回医師の出張診療がある。山中町社会教育文化会館は鉄筋コンクリート半地下1階地上2階建、3億2千500万円、48年4月に完成した。固定席観、移動席70の大ホールをはじめ、図書館、公民館、結婚式場などもある。

隣りには、55年8月竣工の婦人児童館がある。鉄筋コンクリート3階建、遊技室や図書室をはじめ宇宙時代を担う子どもたちに夢を与えるプラネタリウムもある立派な施設である。

議会の行政視察は、視察の目的調査の内容をはつきりさせ、ふさわしい視察地をえらび、視察費が合理的に支出されるようにしなければならぬ。



産業建設委員長

若島 信行

今冬の豪雪は農業、商業、工業など住民へ多大な影響を及ぼした。

これらを踏まえ産業建設委員会は5月27、28日の両日、全国稀有の豪雪地帯である新潟県の十日町市、上越市の克雪対策を中心に視察したことを報告します。

◆十日町市 町を午前7時に出発バスに乗ること5時間、雪と織物で有名な十日町市に到着、人口約5万、一般会計予算約98億円、まずはじめに克雪対策に関する説明を受けた。

道路除雪費は55年当初で3億8千万円、56年4億1千万円計上されている。今年の消費工事費だけ

でも1億4千万円計上され、消費パイプの延長は国、県道で24キロメートル弱、市道では17キロメートルとなり、主要道は全て装置されていた。

消費井は地下150m掘削されていることや特に信濃川の河川水をポンプアップして、消費に利用されていた。

またこの市では生活環境を守るため、54年から10年計画で下水道

の終末処理場の建設に取り組んでいる。第一期の58年度迄の投資額は65億と非常に膨大なものであり、56年でも30億円の特別会計予算のうち繰入金3億円と市債19億円強となっており、大変重要なことではあるが今後の財政運営のネックになるものと考えられる。

そのほか信濃川河川敷13ヘクタールの中に野球場3面、テニスコート8面、サッカーコートなど整



十日町市下水道処理場で説明を受ける一行。

備された運動場を見学した。

この施設は河川環境整備事業の一貫として、建設省で整備されたと聞くので、藁ノ木自然公園にも一考を要する。

◆上越市 直江津は陸海交通の要所として、また臨海工業都市として歩み、高田は教育、文化、商業の町として発展してきたが46年に合併し、12万5千人の都市として発展している。

克雪対策については、消費井は地下水の規制の為進んでいなかったが、市街地は流雪溝を重点に着工が進められている。

商店街の整備と相まって、高田本町、大町地区では総事業費46億円、公園、河川、水路など土地の区画整理事業が行われている。県西南部の中心都市として地理的条件に恵まれ、商業は商圏28万人、年間販売額2千500億円であり、近年「いずもや」、「トリーカマート」、「大和」、「長崎屋」など大型店は7つに及び売場面積1千平方メートルから2千500平方メートルの中型店は16店と、多様な消費者ニーズにこたえて都市改造が進められているのには目を見張った。

以上2市を視察し、十日町市の無雪害対策の雪害道路整備事業、上越市の土地区画整理事業はともに国の3分の2の高額補助を受け実施されている。

以上2市の視察概要であるが、我々議会は一日も早く先進地に追従できるよう計画的に施策を講ずるよう努力する。

行政事務

改善を

視察して

総務委員長

岩場 俊

増税なき財政再建は国民の願望であり、そのための行政改革は国民の大多数のコンセンサスを得られるものであれば、大ナタをふるってもらいたいと思っている。

総務委員会は国の問題をはきとおき、地方自治体の中での行政改革の方向を模索するため6月9日から10日の両日、長野県中野市、新潟県青海町、糸魚川市の2市1町の実状を視察した。

◎青海町 昭和38年に窓口事務の一体化をはかって以来一貫して事務の合理化に取り組む。

昭和43年 提案制度の導入

昭和45年 電子計算組織の導入

昭和47年 事務総点検、行政診断の実施

昭和50年 庁舎レイアウトの再検討と環境整備

昭和54年 住民マスターファイルの作成と統合管理システムの確立

等が主なもので、昭和55年に行った行政事務再点検では57件の改善提案があり、実施への方向で検討が進められている。



この間職員の退職による減員(約30名)を、事務改善により吸収
◎中野市 事務改善の方向は業務委託を中心に行われていたが電話交換、庁内放送業務の委託が変ったところである。学校給食についてはセンターで集中管理され中学校3校、小学校9校約6千食分を職員28名で行われ、その半数は男子で調理と配送を兼務している。毎週1回の米飯給食は業者委託としている。
商業の面では店舗の共同化、協業化が進められようとしており、工業の面では農村工業導入促進法の適用をうけ、市土地開発公社により18ヘクタールの工場団地の造成を行い、新企業の誘致に努力されているのが目についた施策である。

◎糸魚川市 行政事務改善委員会が昭和36年に発足、その後1990年代、1980年代とそれぞれの環境の変化に対応しながら、行政改革を一つの流れとしてとらえ、青海町と同様に提案制度が導入されている。
特に行政事務に対するコスト的な考え方の導入は特筆されるべきものと思う。

いずれにしても今回視察した二一町は、それぞれの立場でその方法に違いはあるにしても、真剣に何が行政改革なのかを求めながら取り組んでいる姿には心から敬意を表したい。

最後にこれからの行政をとりまく環境は大きく変わろうとしていることをふまえて、国民や住民による行政への参加という大前提にたてば、情報公開制度の採用こそが行政改革への大きな柱になるのではなからうか。

ポートアイランド 博覧会を 視察して

大林 政雄議員(自民)

入善町議会議員一行15名は7月9日から1泊で、神戸ポートアイランド博覧会視察研修を行った。神戸博とは、六甲山を掘削し、その土砂で海を埋立て、離れ島を造成、これを今回の博覧会の会場

としたという程度の子備知識で研修に参加したのである。

会場に到着してまず驚かされたことは、その規模の偉大さである。総面積136ヘクタール(甲子園球場の120倍)、島の周囲14キロメートルとこの人工島の大きさに目を見張る。このポートアイランドは、市民生活に必要な都市機能のほとんどを備えた、世界でも例をみない「住民、働き、学び、憩う」を持つ新しい都市空間の海上都市として意義がある。

即ち病院、11階建、ベット数1千床、幼稚園、小学校、中学校すべての近代的な港湾施設、ホテル広場、公園、住宅団地等。人口は現在すでに夜間2万人、昼間実に3万9千人を数える。
病院30億円、小学校、中学校各15億円、土地造成費30億円、建設省直轄の港湾施設1千200億円等投入され、総工費5千300億円の神戸港に悠然と浮ぶ一大理想郷、海の



文化都市である。

この6分の1にあたる72ヘクタールが神戸博の会場にあてられ、国内は勿論国外よりの出展者はアメリカ、ソビエト、ドイツを始めとし、開発途上国を含め40を越えその広域性を誇り国外コンパニオン達も国際色豊かに訪れる人達に多大の感銘を与えている。

奈良時代より大陸との貿易港として栄えた神戸は、近年国際舞台へ姿を現し、異国情緒豊かな人口150万の日本有数の大都市となった。

しかし六甲山景を背に負い、勢い海へ伸びて行かざるを得ない宿命的な地理条件が悩みとなって、山を削り、その土砂で海を埋立て住宅地にする一石二鳥を狙うアイデアが約20年前に二市民から提唱され、全市をあげてこれに注がれた幾多の努力がここに実を結んだと言えよう。

各出展者自慢の華やかなパビリオンを訪れる観衆の人波を見て、今神戸博開催までにこぎつけた神戸市の当事者達の超党派な努力に對し、手放しで賛辞を贈らずにはいられない。

地理的条件に制約された神戸市がその将来を考慮し、いわゆる必要に迫られての人間の英知を結果し、その対策実現のため真剣そのものを集めてこの完成を見たことは絶賛に値するところである。

人間の英知と科学する心を基盤とした努力との相乗効果の偉大さを胸裏に刻み込まれた研修であった。

寄付者のご厚志に深く感謝します。

寄附年月日	寄附金品	寄附目的	寄附者	
			住所	氏名
56. 2. 25	配膳皿 (¥ 70, 000) 110個	野中小学校の備品として	新潟県南魚沼郡塩沢町 1339-1	協栄化工株式会社 工場長 東 城 義 一
56. 2. 28	児童用図書 (¥ 12, 900) 36冊	東部保育所の備品として		昭和55年度母の会 代表 空 徳 愛 子
56. 3. 6	児童用図書 (¥ 40, 000) 40冊	入善小学校の備品として		昭和28年度卒業生 代表 藤 原 紀 昭
56. 3. 10	庭石一基 (¥ 200, 000)	入善西中学校へ		昭和55年度卒業生 代表 奥 田 寿
56. 3. 10	カーテン (¥ 200, 000) 一式	入善町農村環境改善センターの備品として		飯野地区青年団 代表 竹 本 武 司
56. 3. 10	茶 釜 (¥ 50, 000) 1個	"		飯野地区婦人会 会長 藤 木 みよ乃
56. 3. 10	農村環境改善センター研究室鉄骨平屋 115.72㎡ (¥ 4, 480, 000) (¥ 887, 000)	"		飯野地区区長会 代表 広 田 久 吉 飯野地区婦人会 会長 藤 木 みよ乃
56. 3. 10	府用器具 (¥ 200, 000) 一式	"		飯野地区公民館館長 広 田 啓 二
56. 3. 10	時 計 (¥ 30, 000) 2個	"	入善町飯田 358	竹 田 秀 樹
56. 3. 10	籠 (¥ 16, 000) 2個	"	入善町下飯野新 273	本 田 博 志
56. 3. 10	演 台 (¥ 100, 000) 1台	"		入善町農業協同組合組合長理事 大 角 秀 崇
56. 3. 10	会議用机 20脚 カラーテレビ (¥ 350, 000)	"	東京都港区南青山 2-22-3	飯島建設株式会社代表取締役 飯 島 信 義
56. 3. 10	その他備品 (¥ 750, 000)	"		
56. 3. 14	キャンプ用テント (¥ 50, 000) 2張	青木小学校の備品として		昭和55年度卒業生一同 代表 内 沢 秀 嗣
56. 3. 17	木彫パネル、記念樹 (¥ 160, 000)	入善中学校の備品として		昭和55年度卒業生一同 代表 島 谷 一 晃
56. 3. 20	大型テント (¥ 180, 000) 1張	入善小学校の備品として		昭和55年度卒業生一同 代表 上 田 学
56. 3. 31	児童用図書 (¥ 20, 000) 24冊	横山保育所の備品として		昭和55年度母の会 代表 浜 田 節 子
56. 4. 7	カラーテレビ(20型) (¥ 220, 000) 2台	上原小学校の備品として	東京都渋谷区桜丘町 22-14	高 田 吉 次 郎
56. 4. 20	碑石、樹木(こぶし、立山杉、黒松)	入善中学校の施設として	入善町入善 7060-1	松 本 伊 作
56. 4. 21	カラーテレビ(18型) (¥ 100, 000) 1台	上原小学校の備品として	愛知県一宮市萩原町花井方 675	高 田 謙 治
56. 5. 19	カラーテレビ(16型) (¥ 133, 000) 1台	横山保育所の備品として	入善町入善 3368	米沢電気商会 代表 中 瀬 景 次 郎
56. 5. 19	カラーテレビ(16型) 掛時計 各1台 (¥ 151, 000)	"	入善町青木 1427	西川管機工業所 代表 西 川 利 一
56. 5. 19	カラーテレビ(16型) 2台 掛時計 3台 (¥ 320, 000)	"	入善町古黒部 2841	広川建設工業株式会社代表取締役 広 川 周 作
56. 5. 25	広瀬取材用品 (¥ 10, 000)	入善町へ	埼玉県浦和市円正寺 82	中 林 政 次
56. 5. 27	複写機 (¥ 80, 000) 1台	東部保育所の備品として	入善町入善 4808の4	中 村 孝 子
56. 5. 27	邦文タイプライター (¥ 144, 000) 1台	入善西中学校の備品として	入善町入善 3003	沢 田 美 和 子
56. 5. 29	その他備品 (¥ 4, 642, 450)	入善町農村婦人の家の備品として		入善町農村婦人の家建設委員会委員長 高 田 一 家
56. 6. 12	応接用ソファ 2脚 校内用電話 4台 (¥ 180, 000)	舟見小学校の備品として		舟見地区自治振興会 代表 脇 坂 徳 治
56. 6. 12	消防ポンプ (¥ 700, 000) 1台	入善町消防署の備品として	高岡市丸の内 2-12	広島ポンプ商会 広 島 三 郎
56. 6. 22	入善町沿岸漁業振興事業費として (¥ 15, 648, 500)	入善町へ		北陸電力株式会社取締役社長 森 本 芳 夫

編 集 後 記



梅雨も明け、うつとうしい日が続く今日この頃です。昨年は記録的な冷夏、長雨により稲作など多大な影響を及ぼしました。今年は、その様なことがないよう祈りたいものです。少し遅れましたがここに議会だより第31号を発行しました。本号は6月定例議会を中心に委員会の行政視察等編集しました。尚、私達議員任期の満了も、残すこと2ヶ月余となりましたが、任期中皆様のご声援とご指導いただきました事、紙上借りまして厚くお礼申し上げます。暑さきびしい折、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

編 集 委 員

- 米 島 一 信 若 島 信 行
- 岡 島 松 次 郎 上 野 幸 一
- 岩 場 俊 小 林 与 三 雅
- 江 畑 伊 作 福 沢 万 次